

数学科学習指導案

1 単元 およその数をいろいろな生活の場面で使えるようになろう (本時2 / 10)

2 本時の目標

- ・およその数で代金を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

3 習得内容とその活用




(習得) 代金をおよその数で表す。

(活用) ・指定された金額を最大限使って買える品物の組み合わせを考え、所持金で買い物ができるか判断する。【生徒A (3年)】

・指定された商品を、所持金で買い物ができるかどうか判断する。【生徒B、C (2年)】

・いくつかの選択肢の中から適切な概数を選択することで、およその数で表す必要について考える。【生徒D、E (1・2年)】

4 展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 (7)	<p>1 あるスーパーのチラシと教師が必要としているものを見比べる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">数字が細かくて計算めんどくさい。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">代金の合計がいくらになるのか、およその数を予想しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あるスーパーのチラシを配る。 ・教師が買いたいものを伝え、それらを買うのにいくらぐらいかかるか問う。 ・本時の学習課題を提示する。
展開 (38)	<p>3 概数の表し方と使い方を知る。</p> <p>・しょうさんは買い物に行き、下の3つのものを買います。次の問いに答えましょう。(うすい字はなぞりましょう。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>サッカーボール</p>  <p>2740円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>リュック</p>  <p>1980円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>くつ</p>  <p>3260円</p> </div> </div> <p>(1)商品の値段を概数で表す。 (2)概数で合計料金を見積もる。 (3)所持金で買い物ができるか判断する。</p> <p>4 導入の課題に立ち戻り、教師が買いたいものが買えるかどうかを、概数を用いて判断する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習到達度に応じた学習プリントを配付する。 ・キリがいい数字にするといくらになるかを問う。【D・E】 ・金額不足にならないよう、ほとんどの場合を切り上げて考えるとよいことをおさえる。 ・1枚目は一緒に考えながら解き、2枚目以降は各自で解くように促す。 ・机間指導をして、適宜様々なバリエーションの練習用のプリントを渡す。【B・C】 ・応用題を用意し、数ある商品の中から指定された金額を最大限使って買える品物の組み合わせを考えるよう伝える。【A】
整理 (5)	<p>5 授業の振り返りをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">およその数で考えた方が計算しやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭で、授業で学んだことや分かったこと、感じたことを考えるよう促す。 ・概数で表すよさについて触れた意見を取り上げる。 ・個別の目標を振り返り、達成できた部分を称賛する。

5 評価

- ・代金をおよその金額で表すことができたか。【生徒D、E】(活動3の様子・学習プリントから)
- ・代金をおよその金額で表し、買う予定のもの合計代金を見積もることができたか。【生徒B、C】(活動3、4の様子・学習プリントから)
- ・数ある商品の中から指定された金額を最大限使って買える品物の組み合わせを考えることができたか。【生徒A】(活動4の様子・学習プリントから)